

認知行動療法を活用したオンラインメンタルヘルス 相談支援の社会受容性シンポジウム 「企画趣旨」



清水 栄司

千葉大学

子どものこころの発達教育研究センター

大学院医学研究院 認知行動生理学

医学部附属病院 認知行動療法センター



日本認知・行動療法学会
利益相反（**COI**）開示
筆頭発表者名：清水 栄司

本シンポジウムは、
科学技術振興機構（JST）
研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP) 産学共同(本格型)
2022 – 2023 課題番号 JPMJTR221A
「主観アウトカム・データ駆動型オンラインメンタル相談支援システムの効果検証
と社会実装へ向けた展開」
企業責任者 共和薬品工業株式会社
研究責任者 清水 栄司
千葉大学, 子どものこころの発達教育研究センター, センター長（教授）
の研究課題の一つとしての企画です。

科学技術振興機構 (JST)

研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラムA-STEP

令和4～5年度産学共同(本格型) 課題番号JPMJTR221A

主観アウトカム・データ駆動型オンラインメンタル 相談支援システムの効果検証と社会実装へ向けた展開

現代社会におけるストレス過多によるメンタル不調からの社会課題解決のため、多様な心身の状態(主観アウトカム)を柔軟に把握し、データベース化し、セルフケアを提供できるオンラインメンタル相談支援システムを用いて、メンタル不調の未病の状態(閾値下不眠、閾値下うつ、閾値下不安)を改善できるように、モジュールを組み合わせた認知行動変容アプローチに基づくデジタルケア技術のランダム化比較試験での効果検証と満足度調査を行う。

さらに、本システムを社会実装するうえでの倫理的・法的・社会的課題については、心理学、情報工学、教育学、法学、医学、脳科学等の有識者や市民との対話から解決への指針を導く。

オンラインメンタルヘルス相談支援の社会受容性シンポジウム

～「総合知」で創るこころの健康～



研究概要

研究実績

シンポジウム

活動

オンラインメンタルヘルス相談支援システムの社会受容性

主催：千葉大学子どもこころの発達教育研究センター
千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学

本日のスケジュール(予定) 9:30~11:30

司会：清水栄司 (千葉大学)
富家直明 (北海道医療大学)

ご講演者 (敬称略)	テーマ
富家 直明 (北海道医療大学 心理科学部臨床心理学科)	地域に必要とされるオンラインカウンセリング
大橋 将一 (千葉大学子どもこころの発達教育研究センター)	不安の予防教育プログラム「勇者の旅」e-learning版 ー学校での実装に向けてー
横山 太範 (さっぽろ駅前クリニック、北海道リワークプラザ)	認知行動療法的サイコドラマとオンラインメンタルヘルス相談支援
小川 晋一郎 (株式会社Awarefy)	デジタル認知行動療法アプリ Awarefyをリリースして得た学び
総合討論	

<ご連絡>本シンポジウムは録画されます。日本認知・行動療法学会の会員に限定したオンデマンド配信に加え、会員以外にも、広く日本国民に、認知行動療法を活用したオンラインメンタルヘルス相談支援の社会受容性、必要性を考える機会としたいという意図から、日本認知・行動療法学会のご理解のもと、その内容を千葉大学の「オンラインメンタル相談支援の社会受容性シンポジウム」専用WEBサイトにて5年間程度をめぐり公開させていただきます。本シンポジウム全体、総合討論の質疑応答でのご発言や下記のアンケート回答結果は、後日、一般公開されることをご理解、ご了承の上、ご発言、ご回答をお願ひできますれば、幸いです。なにとぞご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。 企画者 清水栄司 (千葉大学)

総合討論：社会受容性について

相談支援システムの総合知の活用：相談支援システムに関する心理学、情報工学、教育学、法学、経済学、医学、脳科学など総合知の活用をAll Japan体制で推進する対話

(1) 人的ネットワークについて

理想

現実

多用なステークホルダーが参画し、透明性の高い議論
ができる座組への期待

(2) 新しいテクノロジーについて

理想

現実

課題へのチャレンジ